

学生団体の活動発表 Part2

⑤日本大学文理学部学生国際ボランティアグループSalamat“A”(日本大学文理学部)



主にフィリピンの子どもたちへの教育支援を行っています。具体的な活動としては、ノートや教科書などの物品支援とフィリピンの大学生たちが、大学で学べるように奨学金支援を行っています。

私たちの活動は国外だけではなく、桜上水など区内でも活動を行っています。今後さらに活動範囲が広がられるように努めていきます。

新型コロナウイルス感染症の影響で対面での活動に制限を受けましたが、現在は再開し、コロナ前の活動に戻つつあります。今後は世田谷区とも連携して何か取り組みができればと考えています。

⑥きずなInternational(明治大学)

東日本大震災を機に発足したボランティアサークルです。発足して10年以上が経ち、被災地でのボランティアのニーズが減少したことや新型コロナウイルス感染症の流行などにより、近年では東京近郊でボランティア活動を行っています。

その中の一つが、区内での学習支援のボランティアです。梅丘ボランティアビューローで「うめ・ゆめふれあい塾」を開催し、近所の子どもたちと一緒に勉強をしたり、交流をしています。

今後もボランティアを通じた社会とのつながりを大切に活動していきたいと思えます。



⑦心身障害者福祉会しいの実(明治大学)

小学校や児童館で子どもたちと一緒に遊ぶ活動や中学生の勉強を見守る活動、障害を抱えた方のためのレクリエーションやスポーツをお手伝いする活動を行っています。学生は、各々、自分の好きな活動先を一つ見つけて、継続して関わっていきます。

活動の内容はそれぞれ異なりますが、どれも「大学生」という特殊な年代にある私たちが、年齢や立場を超えて、色々な人と関わり、お互いに学び合う「良いコラボレーション」が生まれています。



⑧ぱれっと(明治大学)

環境問題への取り組みを軸に、児童支援や国際支援など幅広い活動を行っています。

大学周辺でゴミ拾いを行い、街の美化に貢献する活動や大学構内でエコキャップを回収し、一般の回収業者に引き渡すことにより得られた利益で、発展途上国の子どもたちを対象としたワクチンの製造を支援する活動、「Table For Two」という大学の食堂の協力のもと、オリジナルメニューを売り出し、その売上げの一部を発展途上国に寄附する活動を主にしています。

他にも、児童館のお手伝いなどに取り組んでいます。



世田谷区制施行90周年 令和4年度 せたがや学生ボランティア フォーラム



区内大学やボランティア団体、区などの間でボランティア活動の情報交換をする「せたがや学生ボランティアネットワーク」の取り組みとして、学生と区の連携・協力による「まちづくり」を促進することや、大学生によるボランティア活動への区民の理解と関心を深めるために、活動事例の発表やパネルディスカッションなどを行いました。

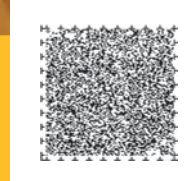
実施日 令和4年12月17日(土) 午後2時～午後4時30分
会場 成城ホール(世田谷区成城6-2-1)



動画はこちらからご覧ください。



主催 セたがや学生ボランティアネットワーク会議、世田谷ボランティア協会、世田谷区
発行 令和5年3月



(音声コード)



基調講演「人はなぜボランティアをするのか。さあ、自分探しの旅に出かけよう」

講演者 渡辺 剛氏
 昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科 教授
 コミュニティサービスラーニングセンター長

ボランティアは、自分との出会いの旅であり、意味ある自分との出会いは、意味ある他者との出会いから始まります。
 意味ある他者との出会いは、自分を必要としてくれる人、かけがえのない存在として自分を認めてくれる人・まち・地球と出会うことです。

意味ある自分に出会うためには、1番目に心の奥に潜む必要とされたいという承認欲求、内発的動機に目を向ける、2番目に人は意味ある他者と出会うことで、意味ある自分を発見する、3番目に社会的地位や名誉、金銭などを「持つ」ための生き方ではなく、「在る」ための生き方＝限られた自己の能力を肯定的にとらえ、それを最大限に活かしながら「生きることの喜び」を獲得していく生き方を求めるということです。

自己効力感、ボランティアの物語を紡ぎ、小さな成功体験を積み重ねることで、育まれ、高められていきます。「ぜひ勇気を持って、一歩踏み出し、ボランティア活動に取り組んでもらえれば！」という講演をいただきました。
 学生の皆さんからは「ボランティアの動機について、興味深いお話を伺い、ボランティアを始めた頃の初心に帰れました」という声が上がりました。



パネルディスカッション「ボランティア活動に関する意見交換」



ファシリテーター
 渡辺 剛氏 昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科 教授
 コミュニティサービスラーニングセンター長

パネリスト
 「せたがや学生ボランティアネットワーク会議」参加団体の各代表者



参加した学生からは、「ボランティアの魅力」や「ボランティア活動から学んだこと」として、
 ・自分の体一つでボランティア活動ができる。
 ・大学の授業だけでは得られない学びを得ることができた。
 ・人との繋がりとこのを感じられたのが、すごく印象的だった。それがボランティアの魅力なのかなというふうにいる。
 ・ボランティアを通じて、自分にとっても、新しい価値を見出せる。
 「ボランティア活動をする」際には、
 ・相手と同じ目線で物事をとらえて、一緒に活動を楽しむ。
 ・しっかりと礼儀や感謝、ボランティアをさせていただき感謝の気持ちを忘れずに行っている。
 「友人への働きかけ」として
 ・いろんな目的を持った方が、その目的を果たせて、定着するように、イベントや企画などをしっかり行う。
 など、様々なご意見をいただきました。

また、「より多くのボランティアをみんながどんどんやることによって、思いやりのある、社会規範が高い社会になると思っている」という、「ボランティアを通じて新たな価値を創出する」という意見も出されました。
 最後に、ファシリテーターから「学生の皆さんがボランティア活動で得たことを生かして、これから出会う色々なことを乗り越えていってください。」というメッセージをいただき、終了いたしました。
 学生の皆さんが様々な活動に参加されて、一人ひとりが異なる学びをされているのが印象的でした。

学生団体の活動発表 Part1

①児童教育研究会(国土館大学)

「せたがやASOBO!」という、小学生のお友達と手作りのゲームをしたり、工作をして遊ぶというイベントを開催しています。

「せたがやASOBO!」は子どもたちが自分達とイベントを盛り上げていくだけでなく、一緒に創意工夫する意欲や、関心、主体性を学べる場所をコンセプトとしています。

まだ小さな活動ではありますが、前回のイベントでは30人のお友達が来てくれるようになりました。

これからも、大学生と小学生が触れ合える貴重な空間を、より楽しく作れるように努めてまいりますので、応援よろしくお願いします!



②駒沢大学ボランティアサークル(駒沢大学)

掲示板を見て、興味・関心を持った活動に、自由に参加することができるという方針をとっています。自分のやりたいことと両立させながら、ボランティア活動に参加することができます。

自分たちの活動のテーマにしてきたことは地域の方々との交流です。新型コロナウイルス感染症の流行でイベントが減少するなど、年々、私たち大学生のような若者と地域の方々とのつながりが希薄化していると考え、地元の方々との関わる活動を多く行っています。

③駒沢大学学生赤十字奉仕団(駒沢大学)

駅前での呼びかけによる献血推進活動や車椅子生活をされている方々との交流、東京マラソンでのボランティアなど、活動の幅広さが魅力の1つです。

様々な活動に参加する団員もいれば、1つの活動に絞る団員もいます。参加形態が団員によって異なるのが特徴です。

最近では、「昭和女子大学ENVO」と共に、学習支援活動を行っています。今後は他大学のサークルや、地域の方々との連携を見据えた活動も行っています。



④昭和女子大学 ENVO(昭和女子大学)

私たちの団体名は、「エンジョイボランティア」が由来になっており、学生がよりボランティアへ参加しやすくなるように日々活動しています。

最近では、フォーラム参加のきっかけとなった、「せたがや学生ボランティアネットワーク会議」への参加等、少しずつではありますが、区内での活動を増やすことができています。

区内での活動に力を入れることで、活動範囲を広げる第一歩につながります。そのために、まずは団体内で他学年との交流、活動機会の周知に注力し、同じ活動に5年、10年と関わり続けることが目標です。